

The Implications of ARTs on Family and Kinship in Iran

The Case of Third Party Gamete Donation

イランにおける先端生殖医療が 家族や親族にもたらしている影響

～第三者のかかわる生殖医療の事例から～

中東諸国でも、現在22か国で生殖医療を受けることが可能であり、生殖補助技術の利用が広く支持されている。しかし、提供精子・提供卵子、提供胚、代理出産等、第三者のかかわる生殖医療については、中東諸国のほとんどが文化的、宗教的な理由から認めていない。このような状況の中で、イランは第三者の関わる医療を選択する道も開いており、近年では幹細胞研究や男女の産み分けなどもおこなわれるようになってきている。そこで本セミナーでは、イランにおいて、第三者のかかわる生殖医療がどのようにとらえられ、家族や親族の関係にどのような影響を及ぼしているかについて、オックスフォード大学の Soraya Tremayne さんに講演していただく。

報告者：Dr. Soraya Tremayne (Founding Director, Fertility and Reproduction Studies Group, University of Oxford)

コメンテータ：細谷幸子 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フェロー)

司会：仙波由加里 (お茶の水女子大学ジェンダー研究所特任RF)

*参加費無料・逐次通訳あり お問い合わせ：仙波由加里 (semba.yukari@ocha.ac.jp)

*要事前申込(右のQRコードか、IGSのウェブサイトからお申込みください)



日時：2018年1月22日(月)18:00～20:00

会場：お茶の水女子大学本館135室カンファレンスルーム